

資料1 拠点病院診療案内調査票（部分）

拠点病院診療案内 2019-2020年版 掲載項目お問い合わせ票

病院名			貴病院の主な診療科																					
住所	〒																							
電話																								
FAX																								
URL																								
病床数	(総床数と、医療法の区分に基づく一般、療養、精神、結核、感染症の床数)		この部分の冊子での表示の説明は8ページを参照してください。																					
救命救急	<input type="checkbox"/> 診療可能 → <input type="checkbox"/> 一次 <input type="checkbox"/> 二次 <input type="checkbox"/> 三次 <input type="checkbox"/> 診療不可																							
歯科診療	<input type="checkbox"/> 診療科あり → <input type="checkbox"/> 診療可 <input type="checkbox"/> 診療不可 <input type="checkbox"/> 診療科なし																							
透析導入	<input type="checkbox"/> 可 → <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> 腹膜 <input type="checkbox"/> 移植 <input type="checkbox"/> 不可 → 自施設での維持透析 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可																							
感染防止対策加算	<input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> II <input type="checkbox"/> なし																							
HIV感染症の外来診療におけるチーム医療加算	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし																							
指定自立支援医療機関(免疫)の指定	<input type="checkbox"/> 受けている <input type="checkbox"/> 受けていない																							
診療の現況 (下記は全てHIV陽性者の人数をご記入ください) 6ページの【「診療の現況」の記入について】をご参照ください。																								
1) 平成29年及び30年のHIV陽性者の新規受診者の状況 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年 (2017)</th> <th>平成30年 (2018)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>① 新規受診者の総数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>② ①のうちの自院受診時に未治療だった患者の数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③ ②のうちのエイズ発症者数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>④ ②のうちのCD4数 200/μL未滿の症例数</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>					平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	① 新規受診者の総数			② ①のうちの自院受診時に未治療だった患者の数			③ ②のうちのエイズ発症者数			④ ②のうちのCD4数 200/μL未滿の症例数								
	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)																						
① 新規受診者の総数																								
② ①のうちの自院受診時に未治療だった患者の数																								
③ ②のうちのエイズ発症者数																								
④ ②のうちのCD4数 200/μL未滿の症例数																								
2) HIV陽性者の定期受診者数 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>2017年</th> <th>2018年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>① 定期受診者数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>② ①のうち外国籍 HIV陽性者の数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③ ①のうち血友病薬害被害者の数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>④ ③のうちHCV陽性者の数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑤ ①のうち15歳未滿の者の数</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>					2017年	2018年	① 定期受診者数			② ①のうち外国籍 HIV陽性者の数			③ ①のうち血友病薬害被害者の数			④ ③のうちHCV陽性者の数			⑤ ①のうち15歳未滿の者の数					
	2017年	2018年																						
① 定期受診者数																								
② ①のうち外国籍 HIV陽性者の数																								
③ ①のうち血友病薬害被害者の数																								
④ ③のうちHCV陽性者の数																								
⑤ ①のうち15歳未滿の者の数																								
3) 抗HIV療法 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>2017年</th> <th>2018年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>① 抗HIV剤の処方が開始、再開された人数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>② 抗HIV剤が処方されている総数(治療中の人数)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>②' 抗HIV剤が処方されていない人数(未治療者)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③ 明らかに治療失敗していると判断される人数</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>					2017年	2018年	① 抗HIV剤の処方が開始、再開された人数			② 抗HIV剤が処方されている総数(治療中の人数)			②' 抗HIV剤が処方されていない人数(未治療者)			③ 明らかに治療失敗していると判断される人数								
	2017年	2018年																						
① 抗HIV剤の処方が開始、再開された人数																								
② 抗HIV剤が処方されている総数(治療中の人数)																								
②' 抗HIV剤が処方されていない人数(未治療者)																								
③ 明らかに治療失敗していると判断される人数																								
4) HIV陽性者の死亡者数 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>2017年</th> <th>2018年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>a) 年次死亡者数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>① 死亡者数(年次毎の数)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>② ①のうちの血友病薬害被害者数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>b) 過去の死亡者の総数</td><td>2017まで累計</td><td>累計死亡者数</td></tr> <tr><td>① 過去の死亡者数(総数)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>② ①のうちの血友病薬害被害者数</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>					2017年	2018年	a) 年次死亡者数			① 死亡者数(年次毎の数)			② ①のうちの血友病薬害被害者数			b) 過去の死亡者の総数	2017まで累計	累計死亡者数	① 過去の死亡者数(総数)			② ①のうちの血友病薬害被害者数		
	2017年	2018年																						
a) 年次死亡者数																								
① 死亡者数(年次毎の数)																								
② ①のうちの血友病薬害被害者数																								
b) 過去の死亡者の総数	2017まで累計	累計死亡者数																						
① 過去の死亡者数(総数)																								
② ①のうちの血友病薬害被害者数																								
5) HIV陽性者の透析患者数 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>2017年</th> <th>2018年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>① 維持透析中の患者数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>② ①のうち新規透析開始患者数</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③ ①のうち血友病薬害被害者数</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>					2017年	2018年	① 維持透析中の患者数			② ①のうち新規透析開始患者数			③ ①のうち血友病薬害被害者数											
	2017年	2018年																						
① 維持透析中の患者数																								
② ①のうち新規透析開始患者数																								
③ ①のうち血友病薬害被害者数																								

「いまできること」（現在対応可能な診療内容）リスト 記入のお願い

今年度も、HIV 陽性者に対して現時点で提供可能な診療機能（いまできること）をご回答いただきたく存じます。今年度、領域ごとに「すべて該当なし」のチェックボックスを作りました。今回、各施設の昨年度のご回答内容を「すべて該当なし」を含めて調査票に をいれさせていただいています。昨年度から変化があった部分があれば、赤の二重線で消していただいた上で新たに該当する項目に赤字で を記入してください。また、昨年度ご回答いただけなかったご施設については、ご教示いただきますようお願い申し上げます。

平成5年（1993年）、我が国で拠点病院を中心とした診療体制の整備が開始されて25年以上が経過しました。この間、抗HIV療法は劇的に進歩しました。また、各施設やそれぞれの地域におけるHIV感染症/エイズに関わる医療環境も大きく変化しています。

HIV感染症/エイズ診療の根幹である抗HIV療法の開始・維持・変更は、診療担当医の異動や退職により「いきなり対応不可」となる施設があります。地方では医師不足による診療科の廃止等により、HIV感染症以外の一般診療がそもそも地域の全患者に提供できなくなる施設もあります。また、地域の医療計画の中で、診療機能の特化により“慢性期”のHIV陽性者に関わる医療の全てに対応ができなくなる施設もあります。

これからのHIV感染症/エイズの医療体制整備のために重要なことは、施設や地域のHIV感染症/エイズに関わる医療への対応状況を可視化することと考えます。これにより、我々は行政と共に、それぞれの地域のHIV陽性者数や個々の医療・福祉必要度及び地域の医療・福祉資源にあわせたHIV感染症/エイズ診療体制の刷新を継続して行うことが必要です。

HIV感染症/エイズ診療体制の再構築のため、地域のHIV感染症/エイズ診療に関する医療資源や体制の現状を確認するための試みです。決して対応できないことを糾弾するものではありません。是非、率直にご回答いただきますよう、お願い申し上げます。

HIV 感染症 / エイズ関連.....すべて該当なし

- エイズ発症例の発症日和見疾患の治療（抗 HIV 療法導入前まで）
以下、自立支援医療（更生医療）制度を利用する HIV 陽性者に対して
- 抗 HIV 療法の開始（導入）
- 抗 HIV 療法の維持（定期処方）
- 抗 HIV 療法の変更

HIV 感染症以外の一般診療.....すべて該当なし

- HIV 陽性者の HIV 感染症以外の疾病に対する外来一般診療・検査
例：上気道炎、胃腸炎等の内科疾病への対応（検査、治療）、外来化学療法、生物学的製剤を用いた治療、腫瘍、挫傷、打撲・骨折等への外科・整形対応。花粉症、湿疹等の眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科等の対応）
- HIV 陽性者の HIV 感染症以外の疾病に対する入院加療・検査
例：入院主病名が HIV 感染症 / 後天性免疫不全症候群でない場合の入院加療。
一般市中肺炎、脳血管障害、心血管障害、骨折等外傷、悪性疾患、教育・検査入院など）
- 産科（妊娠管理（周産期まで））
- 産科（周産期管理）
- 婦人科（女性の HIV 陽性者の一般的な婦人科的問題に対する診療対応の可否）

地域の医療・福祉施設に対する支援機能.....すべて該当なし

- 在宅等療養先や地域の医療機関からの入院、転院受け入れ（施設で寝たきり療養中の HIV 陽性者が誤嚥性肺炎を発症した時など）
- 近隣の医療（歯科を含む）及び福祉施設等での曝露時対応（曝露後感染予防薬の配置またはコンサルテーション）

手術・観血的処置関連.....すべて該当なし

- 予定手術（手術室。全挿、腰麻含む）
- 緊急手術（手術室。全挿、腰麻含む）
- 産科の緊急手術（小児科の協力を必要とする緊急帝王切開を想定）
- 外来小手術（小切開、縫合、生検等）
- 血管内治療（心血管、脳血管、消化器内科領域など）
- 内視鏡による処置、治療（生検、止血処置、切除）

血友病関連.....すべて該当なし

- 公費での会計処理（特定疾病療養受給者証、先天性血液凝固因子欠乏症治療研究事業及び小児慢性特定疾患治療研究事業への対応）
- 救急外来等での緊急時の凝固因子製剤の輸注の可否〔患者持ち込みの製剤の輸注対応可や第 VIII 因子製剤または第 IX 因子製剤の院内薬局在庫ありなど（ただし自院通院中以外のインヒビター症例までは想定せず）。〕

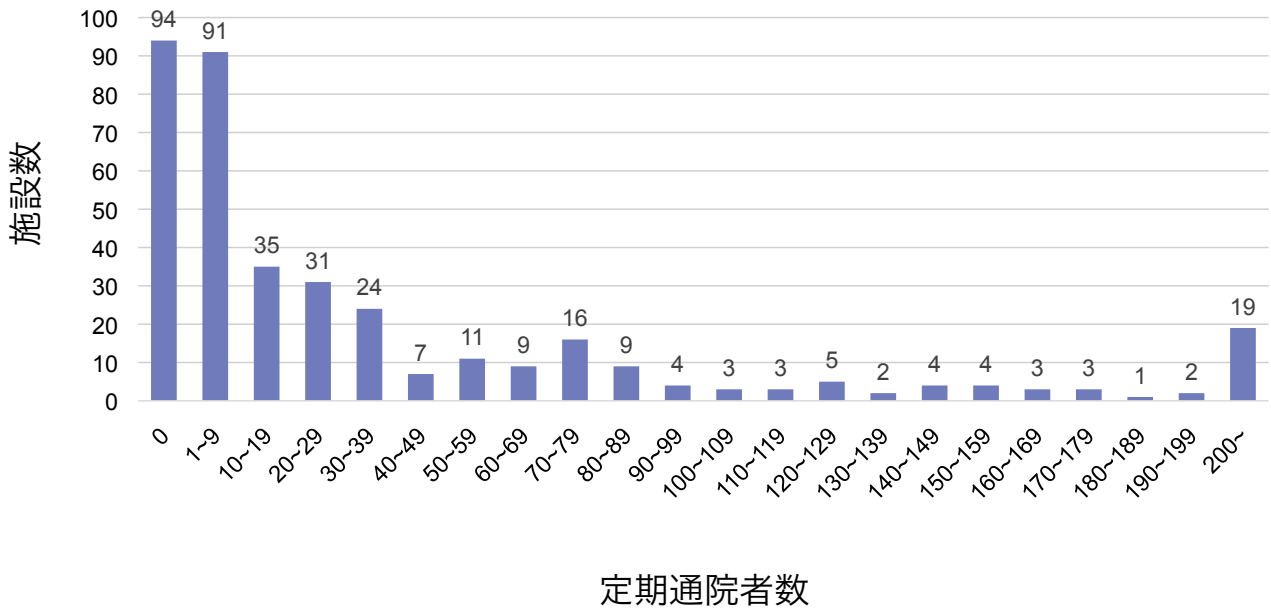


図1 拠点病院毎の定期通院者数の分布

エイズ治療の拠点病院の定期通院者数を示す。横軸は定期通院者数区分、縦軸は施設数である。全380拠点病院のうち、定期通院者数がないのは94施設、200人以上が19施設であった。

図2-1

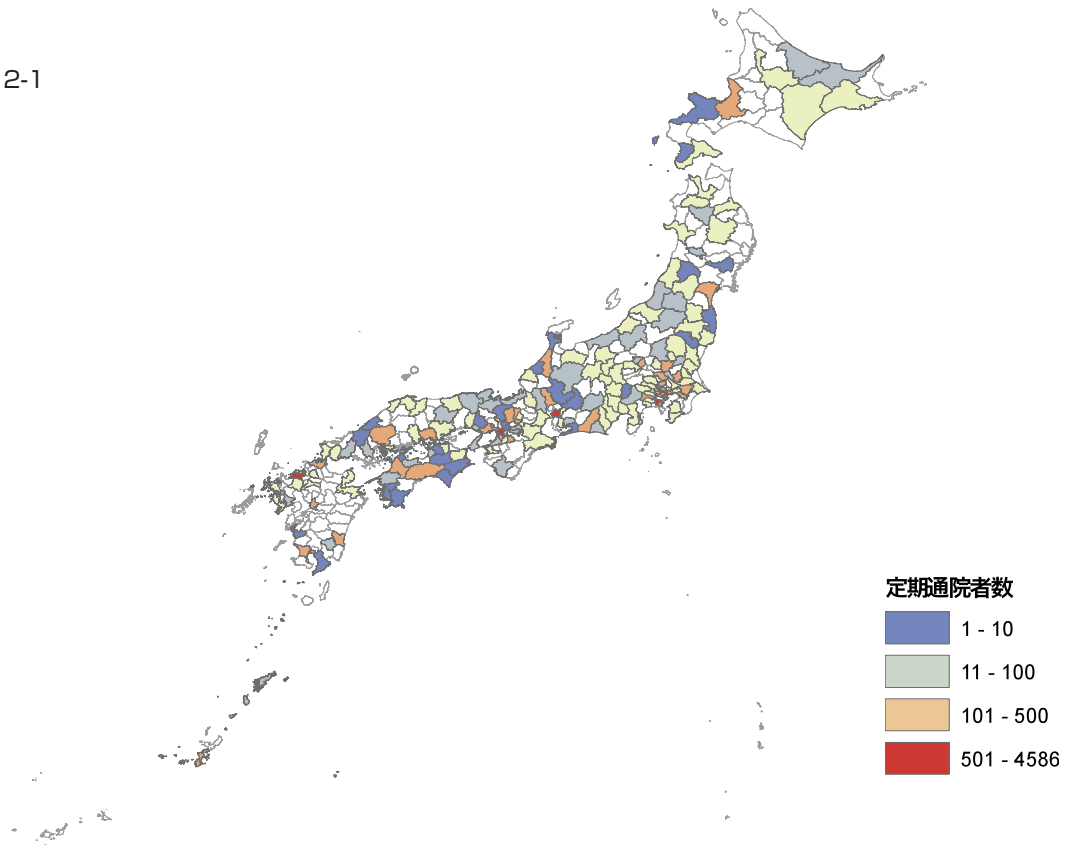


図2 二次医療圏毎の定期通院者数

二次医療圏内の拠点病院の定期通院者数の合計を示す。図2-1は通常の日本地図上に凡例に従って図示したものである。図2-2にエリアカルトグラムにより面積で二次医療圏毎の定期通院者数を表す。東京、大阪及び名古屋の3大都市圏の定期通院者数が多い。また、定期通院者数は二次医療圏毎に大きな差があることがわかる。

図2-2

